文化活動の交流を
共同デスクだけではダメ

西鉱連関係のスポーツは毎年一回以上相当にわたつて交換大会がもたれ、他山に有望な選手がいることを目前に見たり聞いたりすることが出来る一方文化活動はわづかに三山共同デスクを通じて知り合うだけで、これからの労働運動は体力とともに理論の武装、文字を通じての訴えを起し統一と団結をたかめる必要がある。こんど三山の共同デスクはこの気運をもり起すために、陰でもくもくと文化活動をつづける一部の人々であるが、目をむけて三山のつながりをよびかけることにしたすので、会員以外の方の多数参加を要望している。

地についた山野文学

他山にあまり例をみない独自の創作誌〃山野文学〃の第三号の発刊そのうえ演劇の上演など、意欲的な文化活動を続けている文芸サークルでは、いま山野文学第四号の発行をめざして、その準備に懸命である。

山野文学第四号は、三号までの文芸雑誌と趣をかえて、ひろく一般組合員から原稿を募集して大衆的な雑誌へと大きく飛躍しようとしている。サークルというかたい殻から脱皮し真の炭鉱文化の建設に向つて進みはじめた文芸サークルの使命は大きく、容易ではなかろうが、必ずや成果をあげるものと注視をあびている。

山野文学の発刊と同時に、来るメーデー前夜祭にはコーラスと一緒に〃ひとくわぼり〃や〃構成詩〃の上演を企図している。

なお、山野文学第四号は四月十日締切り、五月初旬発行の予定。

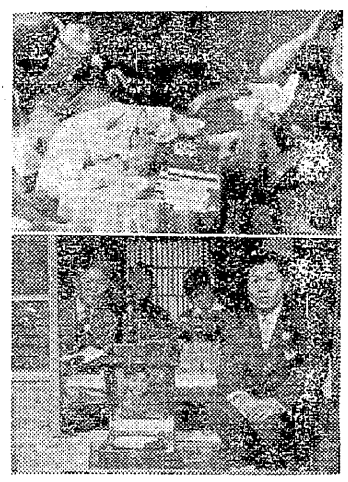
山野文学編集部では、一般組合員やその家族の方もどしどし投稿して〃山野文学〃をわれわれのものとして育てゝゆくことを呼びかけ、四月七日の例会には第八回女流文学賞作品、原田飛子作〃探歌〃の読書会がありま

三池にも機関誌

三池労組ではこれまでいくたびか文芸誌の発刊に努力をしてきたが一年をたゝずに資金面や会員相互間の意見の違いから中絶の止むなきにいたつている。

この変動の中で、三池労組を中心とする地評の同人達が出版している三池文学が隔月間で発刊され着々成果を収めている。

昨年の九月から三池労組の製作支部でも機関誌を出そうという声が起り、元三池労組の書記長であつた北原一男氏が退院し、復職と同時にサークルが出来、すでに第三号まで出版し、批評会や会の運営に発展の途をたどつている。



（上）活躍する山野文学の人だち（下）引張りだこの幻燈会

人氣の田川輕音樂団

田川輕音楽団（指揮者樋口さん以下八名）では、一月に行われた楽団コールマインとの合同演奏のち、三池での演奏だがNHKローカル放送の電波にのつて広く紹介されたが、その後附近の炭坑の演奏に引張られると云つた多忙で、やまの人気ものになつた。

そしてそのすぐれた演奏技術は、NHK放送局もこれを認めて、更に近く放送される予定になつている。

また例年行つていた山野との交歓演奏も期日が近づいているが、諸闘争との関連もありまだ具体的にはなつていない。無論団員はこの演奏を目ざして猛練習を行つており、実現を期待している。なお、今年はコンボ演奏も一般と高い技術をマスターして、他に誇り得るものであるが、一層の期待と声援をおしまないものがある。

ただでおもしろい
評判の白ばら幻燈会

山野の越岡博氏（藤生、掘進）以下五人の有志により結成されている「白ばら幻燈会」の活躍ぶりはめざましいものがある。

昭和二十九年八月から現在まで月平均十二回も上映しているが、全く無報酬で活動している会員の熱意には感服のほかはない。「白ばら幻燈会」は映写機一、蓄音機各一台、それにスライドを若干もつているだけであるが、説明と音響効果が大変上手であるため、あちらこちらひつぱりだこである。

毎月一回定期的に藤生倶楽部で開かれる「ひまわり児童会」で上映するほかに、社宅内を重点的に巡廻し夏は野外、冬はクラブまたは個人の家で父兄を交えて幻燈会を開いているので、附近の炭住街や保育園、養老院など「白ばら幻燈会」の名前をしらないものはない程人気がよい。遠くは飯塚、山田目鉄あたりまでいつてたびたび上映している。

それにただ幻燈を映写するだけでなく間にいろいろ有益な話やクイズをはさんで児童の視聴覚教育の効果をあげているが、やはり一番子供達が喜ぶのは漫画、つづいて童話だそうである。

発足以来三年近くも仕事のあいまをみて幻燈に精魂をかたむけている会員諸兄の努力はなみたいていのことではなかろう。

社会は發展する

九大助教授　川口武彦

一

芝木好子さんは「婦人公論」（四月号）に「女性作家カメラ紀行」＝地底に生きる人々＝三池炭鉱地帯をゆく＝のなかでつぎのようにのべている。

「……炭鉱の坑内は……地獄なのだろうか。そういえば二、三年前石炭不況時代に採炭がストップしてしまい、失業した炭鉱夫たちが娘や妻まで身売りに出した悲劇を覚えているので、私はその炭鉱へ行つてみたいと思つた。けれど考えて、いや違うと思いかえした。私達はどういうものか一番貧しいところを知りたがる癖があるのだけれど傷れたところを見ずに、悪い所を語つて、それを悲劇化するのは、ちつとも正しい見方ではない。それで私は日本で一、二の九州の三井三池炭鉱を選んだ」

芝木さんの言葉は、西鉱連三山の労働者たちにとつてはあたりまえのことなのだが、非常に面白い重要な言葉だと思う。

芝木さんはここではくわしくはのべていないのだが、従来日本人は、この社会を「悲劇的」に悲壮にえがくことをこのんだ傾向がある。そしてまた一方では日本の社会おくれ、いわゆる封建性ということを強調するきらいがある。あたかもこの封建性がわれわれの苦しみの基本的な原因であるかのように、しかもこれらが進歩的なものの見方や考え方であるとも考えがちであつた。このような傾向は現在でもまだそこら中に見られるし、われわれ自身のなかにも深く喰いいつている。このいたずらな悲壮感は早く克服されなければならぬ。

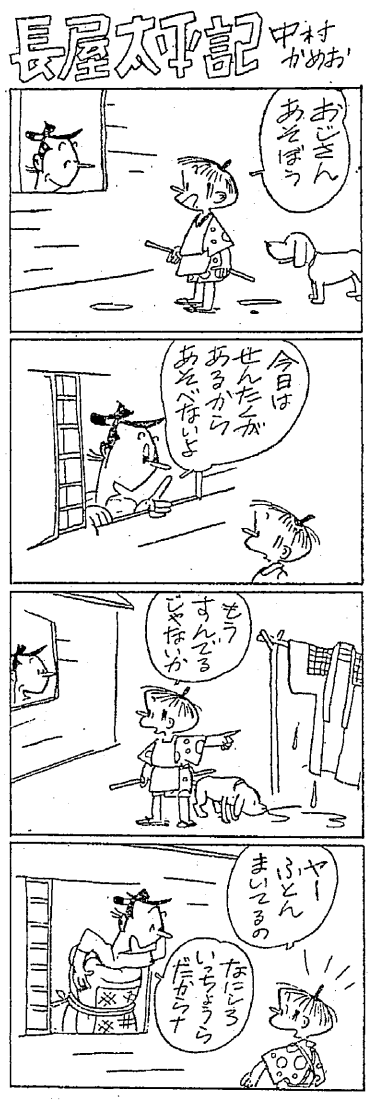
いうまでもなくわが国にはいわゆる封建的な残こうが、社会にも家庭のなかにも残存している。がしかし、いまはこのことをあれこれと指摘してみたり、この原因がどこからきているか、などをのべる必要はない。ただ忘れてはならないことは、わが国がレッキとした資本主義の国であり、しかもそれが最も高度に発展した段階にすでに到達しているということである。労働者階級が対決しなければならないものは、独占資本だということだ。この社会の資本の論理をあいまいにぼかし、資本の搾取を容易にしているのが、この国に残存している「封建性」なのである。だからわれわれは資本によつてこの封建性が「温存」させられているという言葉を使う。

二

しかしながらこの今日の社会にあるわれわれの苦しみはのんきなものではない。悲壮な言葉で語られなければならないのがこの社会の労働者の生活ではある。この社会での生活は甘くはない。都市にも農村にも人々の苦しみはあふれている。この社会の矛盾にまとわりつかれている人々は、職場や家庭のなかで苦しんでいる。炭鉱での生活はその例外でないどころかその代表的なものでさえある。そしてこの苦悩は資本主義社会がつづくかぎりなくなることはない。これが資本の論理、つまり搾取の実体なのである。このことは単なる感傷的な言葉でのべることのできない、腹立たしい現実である。

だが、肝要なことはここでわれわれの議論を終えてはならないということである。またここでこの社会の現実も終つてはいない。かかる資本の論理が冷酷につらぬくなかに、労働者階級の反撃がうまれ、それはますます発展していくこれは誰れよりも労働者がよく知るところである。ここから明るい将来への展望を可能にする条件が力強くうみ出されてゆくのである。

このようにこの社会を発展的に明るく理解することはなにもむずかしいことではない。西鉱連三山の歩んできた歴史そのものが、全くこのことを説明しているのであるから。そして諸君の組織はその証明を将来にわたつてつづけていくであろうから。この社会を悲劇的に見ることは間違いではない。しかしそれにとどまつてはならない。社会は発展してきたし、発展をつづけてゆく芝木さんは作家の目で見たこの単純な、しかし真理をのべられたのだと思う。



尺八、琴、三味線で
労働歌や組合歌演奏

三池労組三川支部では昨年あたりから各種サークル結成に動いているが、去る二月中旬ごろ結成された尺八サークルはその後練習にはげんでいたが、十七日に発表会を行つた。

とくに尺八サークルの発表会に当つて、これも同じくさきに結成されていた楽団が共演、尺八と楽団と琴、三味線という四重演奏会がこの日午後一時から三川鉱講堂ではなばなしく幕あけをした。

この尺八サークル現在二十五名で都山流二十名、琴古流五名となつているが、この日響助出演として三味線には遠くは下関など九州一円の各一流の人たち五名を初め、琴は二十面、そろいのユニホームも鮮かに豪華多彩な顔ぶれでありつめかけた組合員、家族約五百名も完全に魅了され講堂にときならぬ拍手のどよめきが起つたほどだつた。

まず演奏は〃みんな仲間だ肩組る仲間〃の三鉱労組の歌から開始された。六段調、童謡、春の曲、歌謡曲、千鳥の曲などいろいろと演奏され最後に「しあわせの歌」で幕を下した。

山野合唱団張切る

山野合唱団は、いま来月六日の飯塚混声合唱団発表会に賛助出演するため練習に一生懸命だ。週一回の練習日を二回にふやし午後六時から九時ごろまで組合会館から歌声が流れている。

発表会の次にはメーデー前夜祭が控えているので練習にも自然に力がはいつておそくなるまでやめそうにもない。メーデー前夜祭には文芸サークルと合同出演で植野氏原作の「ひとくわぼり」を上演することになつている。

今では合唱団員の総勢は八十人近くの大世帯になり、なおどんどん新加入の団員がたえない。

ボタ山の蔭から聞えてくる歌声はたしかにわれわれ労働者の胸に希望の灯を点ずるようだ。いまでは若い者も老人も女も男も、そして子供もみんな「しあわせの歌」や「手のひらの歌」をしつている。

山野合唱団の山の文化向上に果す役割は大きく、しかもその功績はゆつくりではあるがあらわれてきている。

やりくり
白笛選評

三池　上宮伸太郎

【評】やりくりのランドセル児はうれしいな

【評】親もうれしいのだが

【評】やりくりの予算所目に自衛隊

【評】かくて新国軍健在

【評】やりくりと別れられそう要求案

【評】願わくば協定書であつて

呉れ

三池　江口寛通

【評】やりくりがどうやら給料日を迎へ

【評】給料日がやりくりのやり

はじめ

【評】やりくりの手口ほめられ繁昌し

【評】内緒はどこも火の車

【評】やりくりの工面の前に先づ一汗く

【評】こんな時のキセルは良く

つまる

三池　永松運造

【評】やりくりのお召と見えぬ美しさ

【評】美人に悩みあり

【評】やりくりの伊達には巻かぬ金時計

【評】いざ鎌倉に備えあり

【評】やりくりも上手恐妻家と呼ばれ

【評】汝の名は夫なり

田川　成田呑竜

【評】やりくりはカカア天下が引受けるとしよりの意見もくんで予算表

【評】やりくりの旨さほめあう座談会

【評】やりくりの片腕となる共稼ぎ父兄会やりくり揃いの良い衣裳へそくりも作つてやりくりうまい

妻

【評】やりくりに悩みがふえる帯祝儀札が心待ちするボーナス日

山野　松本華溪

【評】やりくりに疲れた女房ひしと抱き

【評】身につまされる忌い、働けど働けどヂツト手をみる。

【評】やりくりのうまいところで火の車

【評】いくらうまくとも財源がネ

【評】やりくりのうまい女房にやりくられ

【評】亭主族たるもの油断は禁物

【評】やりくりをしらず亭主は果報者

【評】まさに天下泰平ぢや

【評】やりくりが上手になつてする苦労

【評】やりくり過ぎて、ついに遣

退こんにきわまる。

会計簿やりくられてる検査前

※今週の推薦映画　米、砂川（今週は三山共同デスクで遅刊したことをおわびします。）

座談会
流血の記録「砂川」を観て
〃歯がゆくて、歯がゆくて、石をぶつつけてやりたかつた…〃

出海　私たちは砂川問題について新聞その他で一応知つてたのですが、こんど記録映画「砂川」で、目の前にくわしく知る事ができ、一層の感銘をうけました皆さん方は荒尾東映で試写会を見られたので、その感想を話合つていただきたいと思います。

宮川　いや、東京でテレビで見たり、阿具根さんなどからも聞きましたが、映画を見て現地へ行つたような気がしましたよ。砂川は日本の完全独立のための闘いで、しかも基地闘争に飛躍的発展をさせたことがよくわかりますね。全学連の成長などもよく出ている。

清田　私は農民の顔ですね、この映画を暗いという人もあるが、こんな希望を持つた明るい顔は日本の農民には珍らしいですよやがて全農民がそうなるでしよう

出海　一昨年より昨年の表情がやはり明るくなつていますね。主婦会の橋本さんはどうです。

橋本　やはり団結の力を強く感じました。私は中学の子供を連れて見ましたが、家へ帰つて、見てない父親に〃はがゆくてはがゆくて、石投げてやりたいぐらいだつた〃と一生懸命話していましたよ。

中山　ゲート内からアメリカ兵が馬鹿にしたように笑つてながめてるのには、実に頭がたつた。

平島　第五ゲートでメチャメチャにやられたけれど、〃光栄ある敗北〃で実は勝利になつたのだというのがよく出ていた。阿具根さんもやられてたね。

宮川　二回トンネルにぶちこまれたそうだ、抜け出すのに一時間ぐらいコヅキまわされる。

清田　女はスカートをねらえ、というそうだ。まつたく人間ベツ視ですよ。

平島　女を前に出せば警官も遠慮するなどと考えるのは甘いんだな。それにこういう記録を撮ることは大切だな。ぼくらの闘争のときも。

橋本　砂川署長が〃暴力もくそも…〃というのには、中野好夫さんもぼう然となつていましたね

宮川　基地内から押し出してくるなど、連中は権力をバツクにしなければ何もできはしない。

平島　画面がゆれて、普通の映画とくらべると撮影効果はよくなかつたが逆にそれだけ闘いのはげしさを物語る迫真力があつた

宮川　単に警官を憎むという状態に止ることはキケンだ。もつと不平等条約のことなど眼を権力にむけねばいけない。

出海　桑港会議のモヨウが出ましたし、沖ナワの闘争の貴重なフイルムも使われていましたが、欲を云えばアジア、アフリカの民族運動の記録なども入れればもつと良かつたろうと思います

一同　とにかく、はじめから終りまで緊張して見て、時間の経つのを忘れてしまいました。

＝三月十九日＝

【出席者】

三鉱労組（宮川、平島）

三鉱主婦会（橋本）

大地評（清田、中山）

映文協（出海）